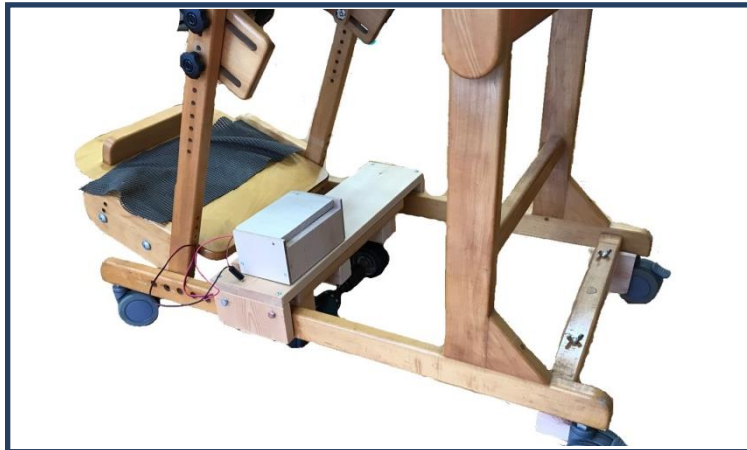


<図・写真>



<材料・製作方法等>

- ①充電式ドリルドライバーのバッテリーを外し、本体とバッテリーを平行コードでつなぐ。
- ②平行コードの中程にモノラルジャックを取り付ける。
- ③キャスターから取り外したタイヤにボルトを通し、ドリルドライバーに固定。
- ④木材でベースやバッテリーボックスを作り、ドリルドライバーを固定。
- ⑤立位台にベースを取り付ける。

<ねらい>

- レット症候群のある生徒について、両上肢の常同運動から合目的な運動を引き出す。
- 立位姿勢の保持、ヘッドアップ及び視線遷移を促す。

<指導方法・留意点等>

- 立位台は、使用する子どもの身体に最適な高さや角度に設定する。
- スwitchの随意的な入力回数を多くするために、平易すぎる入力方法で長時間 ON 状態を持続できるものは避ける。練度が高まれば走行を持続できるが、そうでなければ走行が断続的に行われるような仕組み・レベルのスイッチを使用する。
- 視覚刺激に変化のある走行ルートを設定する。

<指導経過・成果・課題・展望等>

担任から、立位台を電動走行させる方法について相談を受け、本教具を着想した。上肢の合目的な運動を引き出すことについては、過去にも様々なアプローチで取り組んできたものの、本人が結果を期待して運動に取り組めていたかについては、正しく評価することが難しい面も多かったが、ビッグスイッチを使用しての電動カー走行を行った際には比較的良好な反応が得られていたため、立位台の電動走行もまた有効であろうと考えられた。

右写真は初めて学習に導入した際の様子であるが、棒スイッチを球状のスポンジに変えた担任作のスイッチを片手で操作し、もう片方の手はテーブルについて、上体を支えながら活動することができた。走行中の移動感覚や振動を感じつつ、スイッチが OFF になると、制動による負荷が全身に伝わるため、因果関係が端的にわかり、頻回なスイッチの再入力が行えた。

立位台では高いアイポイントを維持できるため、日常的に通行する廊下でありながらも、ふだんより視線遷移と注視を頻繁に繰り返していたように感じられた。

なお、本校にある物を再利用し製作したため、特に電動ドリルドライバーのバッテリーまわりの部材や配線等に不安要素があり、現在は長時間使用・高負荷に耐えうる安全性を確保できるまで使用は見合わせている。

